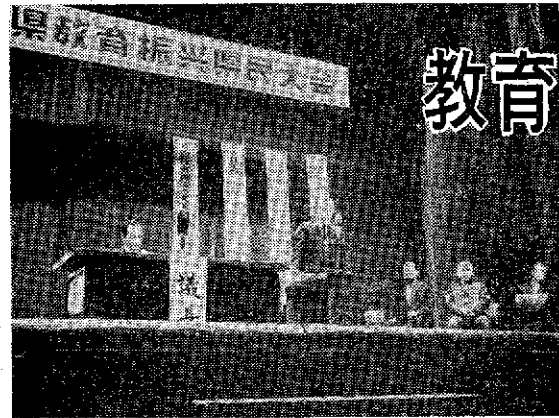


発行所 新潟県公民館連絡協議会
〔新潟市一番堀通町・具教育庁社会教育課内〕
〔電話(新潟) 284111の658〕
〔振替(新潟) 4094〕
発行人 安沢 純 正
(定価 1部10円)

新潟県 公民館月報



くひらく大会民県興振教育

県公連も初参加 社教関係費増額など決議する

さる一月二十日、八日新編市公民館数不足・高校入学希望者急増対策もの。参加団体は県小中高各PTA等において第八・へき地教育・私立学校教育・勤労青少年教育・社会教育など、本へき地教育振興協議会・定通教育回県教育振興協議会・県教育水準をひき上げるために関係団体・労働組合協・教組・社民大会が本年度の教育関係費増額要求の果うとしている。

た。この大会は、父母住民の過重な教育費負担・小中高のすしめ学級・校舎校地の狭隘・実情を訴える臨原考約危険校舎(氏)

総額一億五千万円に 本年度に比し二十%の増

38年度公民館国庫補助

明年度の公民館施設・設備費補たし坪数・単価などに改訂を加助予算は、文部当局の対大蔵省交渉と全国公民館関係者の増額要求実現運動の結果、第一次査定で約一千五百万円の増額が認められたのについて、第四次査定でさらに二千万円の増額が認められたのにとどまり、総額は約一億五千万円にとどまった。

当日は、まず鈴木宗平PTA連会長の開会の辞にはじまり、議長に時田中条町議会議長を連立、島津県教育委員長・鈴木(自民)・雲尾(社会)県議などの来賓のあいさつを聞いたのち、本会の出席関係団体代表による所見を発表がありそれぞれ苦しい実情と現状打開への要請事項などが訴えられた。このあと満場一致で社会教育部門の要望事項など別項(四面)の決議文を採択、三つの陳情

これは、本年度予算に比し約二十%の増になっているが、全公連としては従来の定額補助的な横切、すなわち一億超高百万円の頭打ちを、定額補助(工事の三分の一ないし四分の一とする)に改められることを強く要望していたがとらえられなかった。

区分	38年度予算	37年度予算	増
総額	一四九、六九〇	一四四、二七八	五、四一二
施設補助	一三八、〇〇〇	一〇二、六三八	二五、三三二
設備補助	一一、六九〇	二一、六四〇	五〇

予算増額運動三十
八府県公連が参加
全公連では十一月二十三日緊急役員会をひらき、十四、二十五日は都道府県公連代表者の上京を求め予算増額運動を実施した。出席府県は新潟県など三十八県で、六班を編成してそれぞれの陳情先を歴訪するとともに、個別に郷土選出代表士を訪問した。

目次

- 第三回評議員会分科会追加予算承認 P.2
- 昭和三十七年度追加更正予算 P.3
- 第十一回広報コンクール結果 P.4・5
- 千将の管へ歌に思う P.6
- 県公民館基準・条例成るか P.7

2月の歴史 福沢 諭吉

一九〇二年二月三日、この日東京で死んだ教育者。明治初期の思想界にあつて、実利を脱ぎ、啓蒙的な役割を果たした。慶応義塾の創設者。著者「羊間のすずめ」

政府から、君が國家に尽した功労をほめるようにしなければならぬというから、私は自分の説を手紙して「ほめるのはめられるのと全体ソリヤ何のことだ。人間が人間あたりまえの仕事をしていかに何も不思議はない。車屋は車をひき、豆腐屋は豆腐をこしらえて、書生は書を読む」といふのは人間あたりまえの仕事をしていかに。その仕事をしたいの政府がほめるというなら、まず隣の豆腐屋からほめてもらわねばならぬ、ソリヤとは一切まじまじといつて断つたことがある。(福沢自伝)より

昭和38年度重点目標

一、教育目標

- 1 人間づくりに向って前向きで進む

二、活動目標

- 1 自治短大 (仮称) 設備促進
- 2 公民館義務設置の促進運動
- 3 青少年指導者拡充研修上, 中, 下級ブロックの開催
- 4 公民館長会議の開催 (都市, 町村)
- 5 公民館主事会の健全なる育成
- 6 第三回長期講習実施要望
- 7 公民館模範条例同基準の確立促進方要望

三、公民館自体の整備目標

- 1 基幹都市造成, 工場適正配置, 総合開発等とともに県公連再組織の検討
- 2 公民館調査の実施 (施設々備の実態の把握)
- 3 公民館の現状反省 (運営, 行動, 職員, 組織, 館報内容, ブロック組織等について)

四、運営費の増額

- 1 負担金の算定基礎を, 住民1人当り20銭にする
- 2 特別負担金の月報代を一部単価15円とする
- 3 県補助金の増額方要望

第三回評議員会

昭和三十八年度事業、予算案承認など中心議題とする第三回評議員会がさる一月十二日新潟市柳水陶会議室で開かれた。当日は前夜来からの積雪のため、上、信越線とも不通となり関係評議員のほとんどが欠席したため、出席議員の了承を得て定数不足のまま開催。正午過ぎ羽越線関係評議員の到着によりついで十八名の定数数となった。終了時、審議事項は次のとおり。

報告
● 昭和三十七年度上平期事業報告 (了承略)
● 本会職員の退職手当組合加入

決議
● 昭和三十七年度追加更正予算案承認 (別稿のとおり)
● 昭和三十八年度重点目標案承認 (別稿のとおり)

決処分について
に關し本会々則一部改正会長専

第六回理事会

組織母体の改革など話題に

分担金・追加予算を承認

新年度事業予算も了承

昭和三十八年度事業、予算案承認など中心議題とする第三回評議員会がさる一月十二日新潟市柳水陶会議室で開かれた。当日は前夜来からの積雪のため、上、信越線とも不通となり関係評議員のほとんどが欠席したため、出席議員の了承を得て定数不足のまま開催。正午過ぎ羽越線関係評議員の到着によりついで十八名の定数数となった。終了時、審議事項は次のとおり。

報告
● 昭和三十七年度上平期事業報告 (了承略)
● 本会職員の退職手当組合加入

決議
● 昭和三十七年度追加更正予算案承認 (別稿のとおり)
● 昭和三十八年度重点目標案承認 (別稿のとおり)

決処分について
に關し本会々則一部改正会長専

一月十一日第三回評議員会に先立ち、第六回理事会が新潟市柳水陶で開催された。当日は安沢会長以下七名の理事が出席、昭和三十八年度事業、予算案等について協議した。その他話しあわれたおもなる内容次のとおり。

● 社教関連行政機関との懇談会開催について (細部の企画実施案は社教課において起案検討中だが、各関係機関はテーマによってしほの招集すること。県公連からは理事が参加するよう通知する。期日は二月上旬の予定。

● 県公連組織母体の改革について (市町村公民館長側の案と理事側の案を突き合わせ四月の評議員会にはかりきめる)

● 県公連組織母体の改革について (市町村公民館長側の案と理事側の案を突き合わせ四月の評議員会にはかりきめる)

● 新子連にカメラの購入費九万円が了承された。手持ちのキヤノンIIは、新編大火もまぬかれすでに十年以上の階使に耐えきれないが、新事業「これからの公民館(仮題)スライド資料作成」等のため、新型機と交代する。

昭和38年度県公連分担金

〔昭和35年度国勢調査に準拠し最新の県資料にもとずき算定〕
人口一人当り20銭1円以上99円までの端数は100円に切りあげ

郡市名	金額	人口	郡市名	金額	人口
北蒲原郡	32,800	163,999	三 条 市	14,400	71,594
中蒲原郡	13,100	65,035	柏 崎 市	14,900	74,139
西蒲原郡	26,200	130,621	新発田市	14,800	73,886
南蒲原郡	10,200	50,989	新 津 市	11,500	56,110
東蒲原郡	7,100	35,111	小千谷市	9,900	49,445
三 島 郡	13,500	67,056	加 茂 市	7,900	39,292
古 志 郡	1,300	6,016	十日町市	10,000	49,854
北魚沼郡	13,800	68,809	見 附 市	8,100	40,443
南魚沼郡	15,800	78,595	村 上 市	6,600	32,878
中魚沼郡	8,700	43,191	燕 市	7,600	37,547
刈 羽 郡	11,000	55,002	直江津市	8,700	43,304
東頸城郡	11,100	55,384	栃 尾 市	7,600	37,681
中頸城郡	19,200	95,977	糸川川市	8,400	41,910
西頸城郡	8,400	41,616	新 井 市	6,900	34,351
岩 船 郡	14,000	69,797	五 泉 市	7,400	36,941
佐 渡 郡	16,900	84,404	両 津 市	5,800	28,892
新 潟 市	65,100	325,018	白 根 市	7,200	35,658
長 岡 市	29,700	148,254	計	490,100	2442,037
高 田 市	14,700	73,238			

寄贈ありがとう

川口公民館報、報、新生(入込瀬村公民館)広報(松ノ新郷社会福祉(泉山)松ノ山公民館)ひこし・主寺川社会福祉協議会)・富田町より、大橋たより、大田公民館たより、新潟県図書協会より、大橋たより、瀬戸公民館たより、報、町のあゆみ(吉)り(長岡市中央公民館)広報なおえつ田公民館、道公連(直江津市公民館)のうまら(能生町より)(北海道公民館)安塚前公民館、新郷郵便局連(館報)よしかわ(三ノ宮(新潟郵便局)きたじょ(吉川町公民館)館報)う(北条町公民館)広報)つほめ(無市(に)やま(西山町公民館)館報)まきむ(寺ら(牧村公民館)館報)ら(ら)き(下越地区青年図書館員親和泊町公民館)館報)まきむ(成人式)会(山北公民館)館報)山北公民館新築工事の上のお特集(善町公民館)館報)わた(佐和)り(公民館)さん(山北村田町公民館)館報)いと(い)わ(む)る(若菜村)行政相(糸魚川公民館)館報)委員機関関係行政相談(行政監察報、新井たより、村上市公民館)同)津川公民館報

昭和37年度追加更正予算

才入

款 項	目	当初予算	増 減	追加更正予算	備 考
1. 分 担 金		800,000		800,000	
(1) 分 担 金		800,000		800,000	
	1. 一般分担金	368,000		368,000	
	2. 特別分担金	432,000		432,000	
2. 県補助金		500,000	200,000	700,000	
(1) 県補助金		500,000	200,000	700,000	
	1. 県補助金	500,000	200,000	700,000	
3. 繰越金		40,000	- 1,505	38,495	
(1) 繰越金		40,000	- 1,505	38,495	
	1. 繰越金	40,000	- 1,505	38,495	
4. 雑収入		89,300	45,000	134,300	
(1) 雑収入		89,300	45,000	134,300	
	1. 過年度販入料	9,000		9,000	
	2. 資換雑	50,000		50,000	
	3. 度販付	20,000		20,000	
	4. 雑収入	10,300	45,000	55,300	
計		1,429,300	243,495	1,672,795	

才出

款 項	目	当初予算	増 減	追加更正予算	備 考
1. 事務費		369,560	3,100	372,660	
(1) 給料		257,560	17,100	274,660	
(2) 旅費		33,000	17,100	50,100	
(3) 需要費		79,000	- 14,000	65,000	
	1. 備品費	13,000	- 4,000	9,000	
	2. 消耗品費	40,000	- 10,000	30,000	
	3. 通信費	25,000		25,000	
	4. 雑費	1,000		1,000	
2. 事業費		1,012,400	228,395	1,240,795	
(1) 大会費		130,000	33,005	163,005	
(2) 会議費		120,000	33,005	153,005	
	1. 評議員会費	15,000		15,000	
	2. 役員会費	70,000		70,000	
	3. 主事会常幹費	35,000		35,000	
(3) 研修事業費		160,000	- 12,000	148,000	
(4) 月報発行費		412,400	- 1,810	410,590	
	1. 報償材費	10,000	- 5,000	5,000	
	2. 取印費	80,000	10,000	90,000	
	3. 編集費	240,000	8,190	248,190	
	4. 編集委員会費	10,000		10,000	
	5. 送諸費	72,400	- 15,000	57,400	
(5) 連絡費		108,000	9,200	117,200	
	1. 全国大会費	40,000	2,200	42,200	
	2. 中央等会議費	68,000	7,000	75,000	
(6) 振興費		84,000		84,000	
	1. 県内振興費	30,000		30,000	
	2. 資	54,000		54,000	
(7) 青少年指導者拡充研修費			200,000	200,000	
	1. 青少年指導者拡充研修費		200,000	200,000	
3. 負担金		44,000	15,205	59,205	
(1) 負担金		44,000	15,205	59,205	
	1. 負担金	44,000	15,205	59,205	
4. 予備費		3,340	- 3,205	135	
(1) 予備費		3,340	- 3,205	135	
	1. 予備費	3,340	- 3,205	135	
計		1,429,300	243,495	1,672,795	

川柳 山田凡樂
 世は新春といはれ
 山いかり舞狂うと善人金ののみ
 山の事故明治生れに解しかね
 すさまじい雪形容の言葉なし
 美化された雪の言葉を
 にくむなり
 (青海O.P.H)

改定版

諸会議 大会 での好伴侶

社会教育法令集

A 5 版・34 ペジ・一部送料共30円

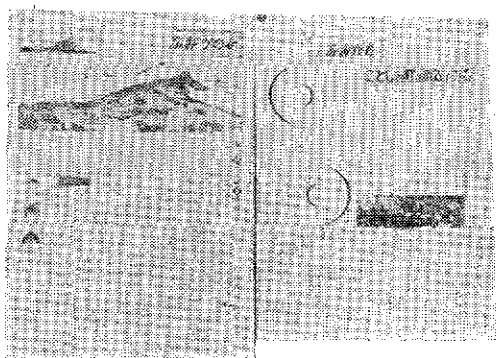
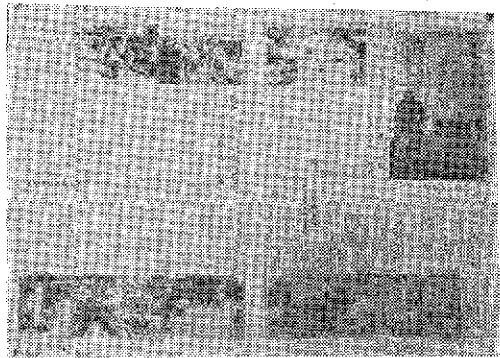
御一報次第直送・県公務事務局

第 11 回 広報コンクール結果

知事賞は長岡 市政だより 館報入賞数点にとどまる

去る二月十八日、県庁第三階控室において県および県教委など主催、本会協賛による第十一回市町村広報コンクール審査会が行なわれたが、知事賞に「長岡市政だより」以下二十一点の入賞作品を選出した。

審査は各報道機関。本年度の応募広報は昨年と同化してきているため審査はかなり厳格で、県文広課の五七点これは三年度の六一長、県社教課代表 志に次ぐ応募数でこのうち約二十(坂爪社教主事) 点が公民館報であった。しか
県公連代表(本田 現在、市町村広報の未発行町村
主事)市町村会役 はわずかに三方村のみで、年々市町村公民館職員が担当している
表等で行なわれとの技術の向上とともにも力が平均と云ふが多く、多忙のなかによく



右写真は何事賞を得た「長岡市政だより」交通安全問題の紙上キャンペーン(二・三画)が大きく認められた

右写真は市の部一位の「新潟市政だより」一面四面をみる。凸版を得意にとり入れ商業紙そこのけというキメの細かい編集が。

左は町村の部一位の二広報かのせ右は同一位の「広報おおがた」編集はともに公民館関係職員で練しやすくなった。

努力しているというところができる
県内広報の水準は全国的にみた
場合かならずしもよいとはいえず
今後の問題としては、市町村理事
者の全面的理解と関係予算の増額
等が望まれている。
入賞作品、次のとおり。
◇知事賞「長岡市政だより」
◇市の部一位「新潟市政だより」
二位「広報たかた」「い」といが
わ「三位」市政とおかまち「
広報みつげ」「広報とおお」佳
作「広報について」「白根市政だ
より」「広報なぞえつ」
◇町村の部一位「広報かのせ」二
位「広報おらみ」「広報おおが
た」「三位」津
川町公民館
報」「とてま
か広報」「館
報やひこ」佳
作「中条町だ
より」「新生
(入広瀬)「
「館報あじか
た」「京ヶ瀬
村公民館だ
より」「公民館
報きた」
××

決 議 文

(一面関連)
現代、教育の現場には、いそいで解決しなければならない問題や、たまたに改善しなければならないことが数多くあります。すなわち、父母や、地域住民の教育関係者の負担がきわめて多くてをばじめとして、校舎のせまみや、教職員の定数不足からくる予じめ学級の問題、普通科の指導せまみや、受持授業時間が長い問題、高校入学生希望者の急増と施設不足による中学入生入校の問題、またまた全国的に低い高校進学率や育英制度拡充の問題等、枚挙にいとまがありません。
さてこの社会教育にいたっては、予費も乏しく、施設、設備も充分でなく、幼年・勤労青少年・成人教育は事業費でありながら放置されています。こうした問題の原因や、解決策をめぐらして「いじめられない教育」を改善し、「ゆきとどいた教育」の実現にふみきり、本県教育の後進性からぬけたすまじいしなければなりません。
一口末から二月上旬にかけてが明年予算を決定する最も重要な時期であります。この予算決定がどのようになされるかによって、本県教育が進展するかしないかが重大な影響をおよぼすことになるはず。
本日のこの県内の教育関係団体を中心に、ひろく県民各層があつたり、教育予算の増額要求を果敢とし、関係各団に、その実施を要請する第八回教育振興県民大会を開催するにいたしました。この大会は次にかける諸問題の解決をはかり、教育を振興し、県民文化を向上させるため、教育予算の大幅増額を、県庁事務、県議会、県教育委員会に対し強く要望します。県民とわたりましたもまた、本県教育振興のため、今後ますます協力し、県民とともに最後まで努力を続けます。

- 一、義務教育無償の原則にたつて、教育予算を大幅に増額し、父母の教育費負担を軽減すること。
 - 二、高校進学希望者が全員入学できるように公費で施設・設備を完備し、育英制度を拡充すること。
 - 三、教職員の定数を大幅に増員し、予じめ学級を解消し、教師の受持時間数を減らし、ゆきとどいた教育が行なわれるべきです。
 - 四、幼児・勤労青少年、成人教育を振興するため社会教育費を増額すること。
 - 五、いじめ、不登校、いじめ防止、公民館をはじめ社会教育施設の充実をはかること。
 - 六、めくまれないへき地教育・定額教育・特殊教育・私学教育の振興をはかるため、特に重点的に予算の大幅増額を行うこと。
 - 七、教科書・給食費・教材費等の全額公費負担の実現を努力すること。
 - 八、老朽危険校舎や不完全な小規模学校を改築し、施設・設備の充実をはかるための予算を増額すること。
 - 九、教育費の市町村負担、および地元負担を軽減し、県費または国費をもって教育の振興をはかること。
- 右のとおり決議します。
昭和三十八年二月二十八日
第八回新潟県教育振興県民大会

オカメ、ハチモクの弁

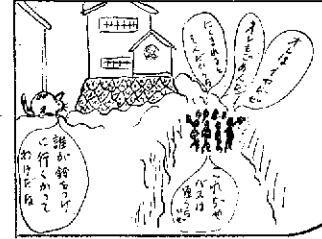
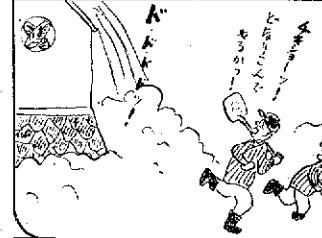
広報コンクールの審査をして

坂 爪 精 一 郎

算 広報 ではないわい。たぐいわれること
 の予 は、広報のためにとられたの財源
 を見込んであるかということだ。
 とわっておかねばならないが、
 ます現 市町村財政の規模の広狭もある
 在の市町 財源の豊富さ、その財源に
 村当局や 日をおおつてはつきりな。
 教育委員 しか、むすかに三町村が広報
 会あたり 紙未発行と信じていたことなので
 が広報の ありうか。これは現地の世論も
 役割をま 同調しないのであろうか。
 ういふ 現地の世論、といえは、やはり
 うに考え 気にかかった版は、新聞
 ているか という新聞紙の潮流を汲
 というこ とである。編集に当るもの
 とであら 理な編集を肩受けたこと
 の役得と である。編集に当るもの
 か備力と の一考を要した。市町
 かいうこ 村広報にはユニークな主
 とは別の 体性というものもあり、
 場や論評 新聞世論の方向を追いかけ
 ることに けても遂に追いつけざるも
 していい ではない。

算 広報 ではないわい。たぐいわれること
 の予 は、広報のためにとられたの財源
 を見込んであるかということだ。
 とわっておかねばならないが、
 ます現 市町村財政の規模の広狭もある
 在の市町 財源の豊富さ、その財源に
 村当局や 日をおおつてはつきりな。
 教育委員 しか、むすかに三町村が広報
 会あたり 紙未発行と信じていたことなので
 が広報の ありうか。これは現地の世論も
 役割をま 同調しないのであろうか。
 ういふ 現地の世論、といえは、やはり
 うに考え 気にかかった版は、新聞
 というこ とである。編集に当るもの
 とであら 理な編集を肩受けたこと
 の役得と である。編集に当るもの
 か備力と の一考を要した。市町
 かいうこ 村広報にはユニークな主
 とは別の 体性というものもあり、
 場や論評 新聞世論の方向を追いかけ
 ることに けても遂に追いつけざるも
 していい ではない。

三毛猫日記



新生活運動の推進啓蒙の資料として
 左記の映画フィルムおよびスライドが
 できています。御使用申し込みは、新
 潟県新生活運動協会(県文書広報課
 内)か県視聴覚ライブラリーへどうぞ。
 ①映画「二十一人の嫁たち」
 ②映画「村の共同墓地」
 ③映画「明るい村づくり」
 ④スライド「街をきれいにしましょう」
 ⑤「美しい開ききれいな街」
 ⑥「旅のエチケット」

算 広報 ではないわい。たぐいわれること
 の予 は、広報のためにとられたの財源
 を見込んであるかということだ。
 とわっておかねばならないが、
 ます現 市町村財政の規模の広狭もある
 在の市町 財源の豊富さ、その財源に
 村当局や 日をおおつてはつきりな。
 教育委員 しか、むすかに三町村が広報
 会あたり 紙未発行と信じていたことなので
 が広報の ありうか。これは現地の世論も
 役割をま 同調しないのであろうか。
 ういふ 現地の世論、といえは、やはり
 うに考え 気にかかった版は、新聞
 というこ とである。編集に当るもの
 とであら 理な編集を肩受けたこと
 の役得と である。編集に当るもの
 か備力と の一考を要した。市町
 かいうこ 村広報にはユニークな主
 とは別の 体性というものもあり、
 場や論評 新聞世論の方向を追いかけ
 ることに けても遂に追いつけざるも
 していい ではない。

算 広報 ではないわい。たぐいわれること
 の予 は、広報のためにとられたの財源
 を見込んであるかということだ。
 とわっておかねばならないが、
 ます現 市町村財政の規模の広狭もある
 在の市町 財源の豊富さ、その財源に
 村当局や 日をおおつてはつきりな。
 教育委員 しか、むすかに三町村が広報
 会あたり 紙未発行と信じていたことなので
 が広報の ありうか。これは現地の世論も
 役割をま 同調しないのであろうか。
 ういふ 現地の世論、といえは、やはり
 うに考え 気にかかった版は、新聞
 というこ とである。編集に当るもの
 とであら 理な編集を肩受けたこと
 の役得と である。編集に当るもの
 か備力と の一考を要した。市町
 かいうこ 村広報にはユニークな主
 とは別の 体性というものもあり、
 場や論評 新聞世論の方向を追いかけ
 ることに けても遂に追いつけざるも
 していい ではない。

算 広報 ではないわい。たぐいわれること
 の予 は、広報のためにとられたの財源
 を見込んであるかということだ。
 とわっておかねばならないが、
 ます現 市町村財政の規模の広狭もある
 在の市町 財源の豊富さ、その財源に
 村当局や 日をおおつてはつきりな。
 教育委員 しか、むすかに三町村が広報
 会あたり 紙未発行と信じていたことなので
 が広報の ありうか。これは現地の世論も
 役割をま 同調しないのであろうか。
 ういふ 現地の世論、といえは、やはり
 うに考え 気にかかった版は、新聞
 というこ とである。編集に当るもの
 とであら 理な編集を肩受けたこと
 の役得と である。編集に当るもの
 か備力と の一考を要した。市町
 かいうこ 村広報にはユニークな主
 とは別の 体性というものもあり、
 場や論評 新聞世論の方向を追いかけ
 ることに けても遂に追いつけざるも
 していい ではない。

算 広報 ではないわい。たぐいわれること
 の予 は、広報のためにとられたの財源
 を見込んであるかということだ。
 とわっておかねばならないが、
 ます現 市町村財政の規模の広狭もある
 在の市町 財源の豊富さ、その財源に
 村当局や 日をおおつてはつきりな。
 教育委員 しか、むすかに三町村が広報
 会あたり 紙未発行と信じていたことなので
 が広報の ありうか。これは現地の世論も
 役割をま 同調しないのであろうか。
 ういふ 現地の世論、といえは、やはり
 うに考え 気にかかった版は、新聞
 というこ とである。編集に当るもの
 とであら 理な編集を肩受けたこと
 の役得と である。編集に当るもの
 か備力と の一考を要した。市町
 かいうこ 村広報にはユニークな主
 とは別の 体性というものもあり、
 場や論評 新聞世論の方向を追いかけ
 ることに けても遂に追いつけざるも
 していい ではない。

算 広報 ではないわい。たぐいわれること
 の予 は、広報のためにとられたの財源
 を見込んであるかということだ。
 とわっておかねばならないが、
 ます現 市町村財政の規模の広狭もある
 在の市町 財源の豊富さ、その財源に
 村当局や 日をおおつてはつきりな。
 教育委員 しか、むすかに三町村が広報
 会あたり 紙未発行と信じていたことなので
 が広報の ありうか。これは現地の世論も
 役割をま 同調しないのであろうか。
 ういふ 現地の世論、といえは、やはり
 うに考え 気にかかった版は、新聞
 というこ とである。編集に当るもの
 とであら 理な編集を肩受けたこと
 の役得と である。編集に当るもの
 か備力と の一考を要した。市町
 かいうこ 村広報にはユニークな主
 とは別の 体性というものもあり、
 場や論評 新聞世論の方向を追いかけ
 ることに けても遂に追いつけざるも
 していい ではない。

算 広報 ではないわい。たぐいわれること
 の予 は、広報のためにとられたの財源
 を見込んであるかということだ。
 とわっておかねばならないが、
 ます現 市町村財政の規模の広狭もある
 在の市町 財源の豊富さ、その財源に
 村当局や 日をおおつてはつきりな。
 教育委員 しか、むすかに三町村が広報
 会あたり 紙未発行と信じていたことなので
 が広報の ありうか。これは現地の世論も
 役割をま 同調しないのであろうか。
 ういふ 現地の世論、といえは、やはり
 うに考え 気にかかった版は、新聞
 というこ とである。編集に当るもの
 とであら 理な編集を肩受けたこと
 の役得と である。編集に当るもの
 か備力と の一考を要した。市町
 かいうこ 村広報にはユニークな主
 とは別の 体性というものもあり、
 場や論評 新聞世論の方向を追いかけ
 ることに けても遂に追いつけざるも
 していい ではない。

算 広報 ではないわい。たぐいわれること
 の予 は、広報のためにとられたの財源
 を見込んであるかということだ。
 とわっておかねばならないが、
 ます現 市町村財政の規模の広狭もある
 在の市町 財源の豊富さ、その財源に
 村当局や 日をおおつてはつきりな。
 教育委員 しか、むすかに三町村が広報
 会あたり 紙未発行と信じていたことなので
 が広報の ありうか。これは現地の世論も
 役割をま 同調しないのであろうか。
 ういふ 現地の世論、といえは、やはり
 うに考え 気にかかった版は、新聞
 というこ とである。編集に当るもの
 とであら 理な編集を肩受けたこと
 の役得と である。編集に当るもの
 か備力と の一考を要した。市町
 かいうこ 村広報にはユニークな主
 とは別の 体性というものもあり、
 場や論評 新聞世論の方向を追いかけ
 ることに けても遂に追いつけざるも
 していい ではない。

算 広報 ではないわい。たぐいわれること
 の予 は、広報のためにとられたの財源
 を見込んであるかということだ。
 とわっておかねばならないが、
 ます現 市町村財政の規模の広狭もある
 在の市町 財源の豊富さ、その財源に
 村当局や 日をおおつてはつきりな。
 教育委員 しか、むすかに三町村が広報
 会あたり 紙未発行と信じていたことなので
 が広報の ありうか。これは現地の世論も
 役割をま 同調しないのであろうか。
 ういふ 現地の世論、といえは、やはり
 うに考え 気にかかった版は、新聞
 というこ とである。編集に当るもの
 とであら 理な編集を肩受けたこと
 の役得と である。編集に当るもの
 か備力と の一考を要した。市町
 かいうこ 村広報にはユニークな主
 とは別の 体性というものもあり、
 場や論評 新聞世論の方向を追いかけ
 ることに けても遂に追いつけざるも
 していい ではない。

初経験の審査 新年早々、県内市町村の発行する広報紙のコンクール審査というのがある。私も仲間入りする機会を得た。二十一年頃から始めたことだ。これは興味と関心があったが、審査は今年が初めてである。一言に申した、県文書広報課の顧問にまで今年三十七年度のコンクール参加は十七紙で、白十三紙の発行中、おまの(多)を占めたのである。内訳をいへると県内の市町村百十ののうち、広報紙を持たないのがわずかに三町村に過ぎない。二十市は全部、町村は九十三紙発行となる。こんどの参加はいわゆる町村以上のに代わる公民館紙の類も入っており、市部では三市、町村部では五十三町村が不参加ということになっている。このうち公民館便りに類するもの参加は北蒲原郡三、西蒲原郡一、南蒲原郡一、東蒲原郡二、三島郡三、刈羽郡二、岩船郡一、佐渡郡二、となり計十七紙コンクール参加の約三割を占めて、一般市町村広報に類(は)を占めたことになる。

山は高いから高い、とはいえない。美醜を問わず賢愚を問う、なともいふ。そこで審査にあたって、私なりにいろいろなことを考えさせられた。

大たん細心の編集 大胆にして細心が特筆の巻料玉案といえよう。羅列で終始して解説不十分では、他のマスコミで償わされている住居にはおもしろくもおもしろくもあるまい。

羅列で気づくことは、記事構成の心理的效果とか、割りのつけの視覚的効果、凸版や凹版のツビツビールを無視していること。つまりくふうをこらさず、へたな延しの編集ありのものなはず、丸めてくすかにほうりてみたくもなろう。

取り上げるもの、 市町村広報は正に公立志業である努力の過程と、住民への親切な奉仕と、それには企画と取材と構成の工夫が望まれることにつきる。理事者側もそうした意味で高い理想と深い理解を広報発行に注いでもらいたい。ガリ版よりは活字版を、ザラ紙よりは高紙の使用を、と意欲を燃やしてもらいたい。同時に内容の充実前作作者の氏名を明記する。

理事者の理解 コンクール参加は一応自費をもちつてのことと思われたが、はっきりいって当落は問題でない。

努力の過程と、住民への親切な奉仕と、それには企画と取材と構成の工夫が望まれることにつきる。理事者側もそうした意味で高い理想と深い理解を広報発行に注いでもらいたい。ガリ版よりは活字版を、ザラ紙よりは高紙の使用を、と意欲を燃やしてもらいたい。同時に内容の充実前作作者の氏名を明記する。

直江津 「港の歌」歌詞募集

「胸を張ってみんなが歌う日本人の歌を作りましょう」

▼内容 羅漢する直江津の景観である港の歌で、市民はもろく日本中の人々から親しまれ愛唱されるもの▽形式「行進曲風」のもの、「童謡風」のものとして形式は自由です。

欄外に住所、氏名、職業、年令を明記のこと

▼応募資格 制限なし

▼送り先 直江津市天土町、直江津市公民館内「港の歌」係

▼賞金 最優秀作品三編各一万円佳作作品各編各三〇〇〇円

▼著作権 入選歌詞並びに作曲の著作権は直江津市に帰属する但し作詞者・作曲者の氏名を明記する。

▼締切 昭和38年3月31日

▼発表 昭和38年4月

本人に通知する。(直江津市公民館) 公民館関係者の応募をお願いします。

新生活運動広報映画・スライドができました

新生活運動の推進啓蒙の資料として
 左記の映画フィルムおよびスライドが
 できています。御使用申し込みは、新
 潟県新生活運動協会(県文書広報課
 内)か県視聴覚ライブラリーへどうぞ。

県青年学級生大会から

① 誰がつけたかその名を青年学級……」

というモンチめいた表現が流布された時より今日まで、青年学級も十四、五年の年月を経ているがその間

A 依然として青年学級の新たな出現
B 昔も今も青年運動の中に位置づけられて正しい学級の動きをうけていく地域
C 栄枯盛衰の波を繰り返している地域
がある。Bには多少のくさみは感ぜられるが、理解ある行政当局へ、適切な指導者があるならばうんといい学級に伸びるであろう。Cではその都度どうも

吹けば飛ばよな 百姓たけど
かけた命を 笑わば笑え
生れは越後の 蒲原平野
月も泣いてる おいらの姿
第四回県青年学級生大会第一夜、
キャンデルサーカスの席で、恐らく
清原方面の学級生のグループと想
う、出稼ぎの青年が、二、三の歌に
合わせて踊った。物。結び
「人は知らぬ、おいらの意気地」
で終った時、長崎農研会館の大
講堂も破れんばかりの喝采であっ
た。
王将の持つ特製のメロデーに、農
村青年の魂をうきまわす。またこの出
し物は、集まった三名の青年の、
言わんとして言えなかつた胸のう
ちをすっけ抜いた全山色のもので
あった。
事実、二百回を過ぎて話し合われ
た大部分が、変貌する農村と、そ
に生きる青年の悩み、問題であっ
た。話に言え、その集約としてこ
の出し物があらわれたらいいよか
ろう。
。何んか農村の支えとなるために
学習していかうという青年
。まったく意気消沈している青年
。極端にはわががた話動を志向す
る青年
。瞬間のほげ口を青年学級に求める
青年
。等々の実態がしんげんに述べられ
た。

私自身、自分の預かる青年学級
の、あせれどもせせりにもならない実
情を知っていた。全県下の青
年たちが、誰も誰も同じ悩み、か
くもしんげんに取り組んでいくこ
ろをなかつた。しかも、あきらめて
しまった形を、前向きな姿勢で
何んとかそれを打開していかうとす
る意欲があふれていた。その
ためには、この折に他の状況を聞いて
て共に悩み、指導者の言に耳を傾
けては考え、仲間をみつめては励ま
し合い——といった雰囲気があふれ
ていたことによっても充分察せられ
た。
こうした大会の全日程の中から感
じとたいたくつかの問題についての
べてをみた。

“王将”の替え歌に思う

猪 股 武 雄

② 自由に見える施設が
ほじり
多算がもつとほじり
行政当局の理解がほしい
リーダーの研修が必要だ
。主事や講師は農村を馬鹿にしてな
いでほしい。もっと学級生の
かじりついでをもっと定額なら

中にとびかんでほしい
。栄え、何んで表えたのかの徹底。等々の要望は、十数年来ついで
分析ができないものか、というよ
うなことが感ぜられる。
これら基礎的条件の整備がなされ
ていない。

B 他人の前で話ができるようにな
った
。話し合う仲間がほしい
。生活に直接役立つもの
。自分の生活の将来を切り開いて
いくもの
。専門的教養
。E 専門的教養
等の話が出たが、これはそのまま
学級生の意識の巾をあらわすもの
である。それだけに取らねる学
習内容の吟味が必要である。

行)に盛られている論議を引用
して私見を加えてみた。
青年学級・青年学級、4日農村青
年のグループがどれも別れかかっ
ている。といって、新しい集まり
は生まれきていない。学者たち
も、これらのグループが、一従来
の農村秩序の上では意味をもつ
ていたが

A 農村社会や農業の変化の今日的
状況という外的要因
B 青年たちの生き方や生きる力を
育てていなかったという内的要
因
によって影がうすくなってきてい
る。このうち前者は指摘して
いるものの、これからの方向につ
いては、的確な意見をのべていな
い。ただ「農村青年と通勤青年と
の提携」という方向において新らし
い息吹きを感じられる」というこ
とだけを紹介しているにすぎな
い。
その理由として、「通勤青年は
職場のきびしい労働条件や、冷た

いせり合いの論理の中で人間疎外
を感じており、青年団のような
何んでも言える人間関係の集団が
ほしいといっている。「従って」
組織と運営が適正であるならば
この方向で新しい農村青年の学習
運動の芽生えが可能である」とい
っている。そして「どちらかのき
せいで問題を解決するのではなく、
共同の学習と実践によって、共同
の問題を解決している態度を身に
つけていかねばならない」と指摘
している。
新しい社会の建設を考えても
「命」と題し、学習院大学の久野
収知生の講演があったが、その内
容は科学的青年観に終始したさら
いがあった。
「生活手段の再生産(国)への
(と)生命の再生産(人)への」が
共に拡大的であるのが新しい社会
である。職前は前者を重く見、権
威に委ねる後者を軽んじた。戦後は
国民が総駈向して前者のみを考え
たため、人間疎外、挫折がおこり
た。よちよち後者を考えるようにな
ってきている。この両者をばらば
らにせずには抑はしていく使命を青
年には託している。さらに、生物
的にいえば人類は、一つの種である
それが政治、文化、歴史によって
ばらばらになっているのだから、
人類を一つにし、世界の平和を創
るような方向で世界を造りかえ、
成人の日に記す(新津市小合
東青年学級主事)

県主事会は、発足間もなく「公民館職員の処遇の問題」と「公民館設置運営の基盤案作成の問題」にぶつかった。これは公民館職員の身分の確立、福祉の面から考察して検討を加えなければならぬ問題である。すなわち公民館運動とは、館があつてはじめて館活動ができるのであつて、館がないのではたまた社会教育法第五条から十三条に至る奨励事業を推進しているに過ぎないのではなからうか。このゆきゆきと打開するため、県主事会では先年以來、実態調査や条例調査など基盤調査を続けていたが、この二月中に県主事会案をまとめた県公庫ならびに県教委に提出する運びになつてゐる。

公民館は認知の通り、昭和二十一年七月五日発社二二二号の文部次官訓令の茶の同文と言われ、新聞等官公報およびこれに付随した「公民館設置運営のしき」として各町村に配布、その設置を促進した。

しかし各町村は、六三三制の半制改革による諸問題と産業隆興、振興を重視策としていた関係上公民館の設置は第一義的と考えられていた。しかし指論層は、公民館設置の一〇〇歩をめぐり、役場、農学校の二階において公民館は置かれたとして、看板をかかげ、住民サービスセンターに開所した。こうしたことにより、地域住民からは、役場の二階のごとくに考えられたり、学校の一分野と思われたり、あるいは青年学校の看板替えと見られた面が多くなり、公民館活動の際にもなつて關係者を悩ました。さらに当時の

何か会合する時は、役場の一室や寺院等を借りたり、学校の教室を利用してしりしてゐた。このことから、昭和二十四年六月十日社会教育法が公布されたが、国の責任が判然としなため空文化し、市町村自体も積極化を許す仕方なく行なうといった傾向にあった所が多かつた。このため職員は昼夜を分けて大いに活動したのであるが、公民館としての建物を持つた所はわずかであつた。こうしたことから公民館職員は、福祉等の前線が考慮されなければならぬといつてきたのである。ゆえに私達はあくまで公民館は建物であるといつてこそ確信し、国

の協力をよつて理想的なものをして早く建築する必要があることとを推進しなければならぬ。昭和二十二年七月五日、公民館設置運営及同年十月二日、文部省、新潟県発行、公民館設置運営のしき、公民館は町村立の営造物として、町村に於て管理すること、地方自治法第二条の五、学校、研究所、試験場、図書館、公民館……その他の教育、学術文化事業に関する営造物を設置し……

人口三二万人では一七、二四坪、人口三万人以下では二六、一六坪、申請分平均八五、七坪となつており、予算要求、地方債と定率の基準としては市の場合と定率を合せて三〇〇坪、町一八〇坪、村一二〇坪であるといつており、県としても昭和二十九年九月六日八日に、新潟市の自治会館に七日付県教育長発の「公民館の設置促進について」の文書中公民館条例の一例が示されてゐるが、この条例には公民館長一名

がいるが、職員は呼ぶべきとあり、昭和二十四年七月、当時文部省社会教育課長であつた寺中作雄君による社会教育法解説に「公民館には公民館長代表すべき館長の外に公民館の事務を担当する主事等の職員を置くこととなる云々」と述べてあるにもかかわらず、職員の職名が不文律になつてゐる原因は、社教第七〇号昭和二十三年十二月八日に、七日付県教育長発の「公民館の設置促進について」の文書中公民館条例の一例が示されてゐるが、この条例には公民館長一名

県公民館基準・条例成るか

その現状と経過を述べて

杉野哲次

ベテランのソロ

刈羽郡北条町公民館主事 小暮善栄氏

意見書 小暮善栄氏 主事なるともインセンが深く、この道は和南中丸田時から肝煎照らす仲である。これらの放腕が認められれば、公民館設置とともに關係団体の強い推せんを前線に投げ打ち、初の特任主事に迎へられた。自宅では水田七反があるが、日曜百姓に精出してゐるが、彼は管に至るまでまんべんなく昇せられ、職員の的である……驚嘆こそ活かされるべきで、職員は住民とともにあらねばならぬ。断じてえらそうな役人であつてはならない。ときには泥まみれになつて、きついで農業労働を身をもつて体験し、日常生活のふれあいの中から新しい農村文化、公民館活動を生かすものにつくり上げていくことだ」と。味のあつたことばである。

昭和三十七年二月廿日

第一回職員 講習生職方印

軍隊から帰るとすべ長閑の紙道弘法会に入り芳組東北四県支部の副委員長をつとめたかたわら北条町青年団長として郡内体育大会兼開大会などもちまゝの弁説をふるい統轄に活躍してゐる。趣味は、弘法会時代にやみつきとなつた「マーシャ」で北条町では筆わけの部とご自宅で三十七。写真展は青年副長時代の「小暮善栄氏」



刈羽郡北条町公民館主事 小暮善栄氏 (編集部記)

えくゆく選挙の明公

治英木青

新人が立候補するには、まずホスに伺いを立てていへば、金の金があるのかと相談する。出しつぷりによって候補に推せんされるわけである。次は候補の選定会が開かれる。これは予定の仕事がなされてから忽ち決する。決するや否や決した、これからの活動されたのちとホスのことば、真実

統一地方選挙が行なわれるのから四月十七日と三十日というのに、新年中々から選挙の話でも切つてい。軽々ならまいたい。正同の休みを利用して地方ホスに食ひこんで立候補の名乗り工作をしてい。後授会組織を促している。こ



〔カット・小柳耕司〕

が初まる。この飲み代が候補者が行なわれるのから出るわけである。

選挙法によつた選挙運動期間だけである。そのころはすでに得票分野がはつきりしている。「公明選挙は事前運動から」これをモットーに選挙の活動がなされたい。警察は事前運動に近

町づくり

いつかテレビの普及状況を調べてみて、町にもマスコミのある機能が入りこんだことを感じると、テレビ・チャイルドの問題とか、生活に受身になる心配はないかと前々としてある。二年ほど前だったと思う。

そのころのテレビの実用台数は三五〇台くらいだった。以後も相当の台数のひきあつて思つていて、その普及速度は思ったか予想外で、「三五〇台」という数字は、頭打ちではなく、う程度のおのころのじよんの

動のメスを入れられないものだらうか。年賀はがきを何万枚出そうが、新潟まつりの長岡まつりの花火焼酎(さけ)に選挙区民を招待しようが、春場所相撲に招待しようが温泉に招待してみやげを持たせようか、「これが事前運動だ」というキヌ手がない」これが警察の告白である。

「まるところ選挙法の改正を本館にやらねば、公明選挙は望めない。とは一般人の考えであるが選挙する人の心を替えない限り法を改めても選挙は公明にならない。

雪道庵原

すべり倒れてしばし見返す道は景色新鮮なりけり松山杉山底城のしこま長靴すべりぞんぶんに倒れて早期の意識覚めたり
あはむにすべり倒れたまゆめたいつへ見ゆ話の冬晴
わが夢何で止まるか雪路に下心なむ思ひ湧くと言はなぐに
上辺水の下流れゆる過ぎ水音ほそみつくして大寒晴れて
下心なむ言なきなむわれへ見んか白き雪路を時止まして歩く

理想がはかしくなるのである。あらためて普及度を調べてみる。気が起きてこ。ときたま「コトツでテレビをみる世の中になった。あんまり進歩が早くて夢みたい」というある婦人の声を耳にして、もう一度テレビ(マスコミ)を

テレビくそくらえ!

集中し物質的な欲望はほとんど満たされる世の中になった結果生活態度のうえは新しいマイナスがあらわらつて思つた。家にいればテレビ・ラジオにかじりつき、ちょっと旅行すれば

「自分」という、ひとりの確固とした人間でなくて、同じテレビの映像を見、手にあるものだれもが持っている印刷物ではない。自主性がなく生活が受身になりオレらしさがどっかへ消えてしまふ。」

ゆき子が船のしぎに吹きつける粉雪ゆめし海原こめて
(越佐航海 首)
わが船の大橋するや冬潮を三つ舳やかたにたたく船は
(佐渡公祖願問・本会書記 首)
ふるさとは 山岸芳治郎
人の世の幸せ祈りて新しきを迎えぬるまにたにて
新春を雪は頻降れしかすがにうから拙して家内温くとして
ふるさとの山河親しもよ縁開き酒汲み居れば幸せ原き手
さきやかな思恋を抱きて立ち向ふ世相は變ず我を原目に
ミサイルを争ふ手届はひや練し心遣ひく生きたる友と
(見附市本町五、清沢野雲)



あとがき

人よりまけない人」この標語を生かして選挙民の望む人立候補させねばならぬ。
売収、票の、接待、旅行、報酬後援会、みやげもの、そうした備しは一切受けなければい。受けるものが一人もなければ、やるものがないくなる。こころなれば事前運動がなくなる。読者の欄などに事前運動をやるものが悪いようにいつているが、私はむしろ受ける方の側に罪があると思う。本誌に正しい選挙をするならば接待、招待のあらゆる利得を拒否すればよい。受けなことが選挙の結果にあらわれる選挙は、十六市、五十五町村の首長と議員が改選されるその外今年中には、三市三十三町村が改選、結局首長五十一、議員二千九十二人、計二千四百四十三人が改選され、まさに選挙は花ざかりの年である。事前運動が花ざかり、薄皮が花ざかりにならないよう、要は選挙民の自覚によつて明るい正しい選挙にしたい。

破産報告がいまのよきとあつたと云ておろす心配してしまふ。
× × ×
× × ×
(本)